

平成26年9月4日

## バリアフリー対応や、インテリアデザインを刷新

# 6000系リニューアル車両がいよいよ営業運転を開始します！

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：加藤好文）では、平成25年よりリニューアル工事に着手しております6000系車両につきまして、このたび、1編成目（8両編成）のリニューアル工事が完了し、平成26年9月5日（金）より、いよいよ営業運転を開始します。

今回のリニューアルでは、車いすスペースや液晶型車内案内表示器、ドアチャイムの設置などバリアフリー化への対応のほか、内装材の取り替えや座席の更新、通話型非常通報装置の設置や握り棒の増設など、当社最新車両である13000系車両のインテリアデザインをベースに車内を刷新しています。液晶型車内案内表示器には停車駅などの旅客案内情報のほか、ニュースや天気予報などの情報提供も充実させています。また老朽化した制御装置等の機器を改修することで、故障に対する予防保全および機器の保守軽減を図っています。さらに、車内照明や前部標識灯（ヘッドライト）、行先表示器にLEDを採用し、省エネ化を図っています。

今後、年に1～2編成のペースで工事を実施し、平成33年度には6000系車両全編成（8両14編成）のリニューアルを完了する予定です。

6000系リニューアル車両営業運転開始についての詳細は別紙のとおりです。



6000系リニューアル車両外観



車内インテリア

(別紙)

## 6000系リニューアル車両について

1. 運転開始日                   平成26年9月5日（金）           8両×1編成  
  ※平成33年度までに全編成（8両×14編成）のリニューアルを完了予定

## 2. 特徴

### ①バリアフリー対応

- ・パネルヒーター付きの車いすスペース（全車両）の設置
- ・液晶型車内案内表示器（1両あたり6箇所）の設置
- ・通話型非常通報装置、扉開閉予告灯、ドアチャイム、誘導鈴の設置



車いすスペース



液晶型車内案内表示器



通話型非常通報装置



扉開閉予告灯

## ②インテリアデザインの刷新

- ・ 1人あたりの座席幅の拡大およびバケットシート化
- ・ スタンプションポール（握り棒）の設置
- ・ 車内内張り（天井部を除く）および床上敷物の更新



バケットシート化された座席とスタンプションポール

## ③省エネ化について

- ・ 車内照明や前部標識灯（ヘッドライト）、行先表示器にLEDを採用



車内照明



前部標識灯（ヘッドライト）と行先表示器

（ご参考）

6000系車両について（製造初年：昭和58年）

架線の電圧を600ボルトから1500ボルトに昇圧させた際に、昇圧への改造対応ができなかった旧型車の代替用として大量新造した車両。アルミ車体に、側面の大型一枚窓、正面の大型非常扉を採用し、京阪電車のイメージを一新したスマートなデザインが特徴です。昭和59年には「ローレル賞」（主催：鉄道友の会）を受賞しました。

以上